

「市民が主役の魅力あるまつど」をテーマに、さまざまな角度から街の魅力をお伝える市民活動特集号（平成25年度から通算4回目）として、市民と行政が一体となったプロジェクトチーム「まつどやさしい暮らしラボ」の活動を紹介します。

特集に関するお問い合わせ＝広報広聴課 ☎366-7320

まつど
魅力
再発見



まつどやさしい暮らしラボ
って何

「まつどやさしい暮らしラボ」は、市民の皆さんや市に愛着のある人たちが、まつどの魅力を再発見し、情報として自ら発信していく「情報共創型シティプロモーション」活動を市民と行政が一体となって進めるプロジェクトチームです。

街のあちこちにかくれている「やさしい暮らしへのヒントやアイデア」「やさしい暮らしづくりに挑戦している人々」を魅力として発信し、情報と人、人と人がつながる場を創ろうと活動しています。

どうして「やさシティ」なの

市では、平成25年4月1日に市制施行70周年を迎えたことを記念して、ロゴマーク・スローガン「やさシティ、まつど。」・ステートメントを定めています。

スローガン
やさシティ、まつど。

今回の市民活動特集では、「まつどやさしい暮らしラボ」が市制70周年を記念して作られたスローガン『やさシティ、まつど。』の実現のため、「まつどのやさしい暮らし」「暮らしやすさ」をラボの活動を通して発見・発信し、新たな街の魅力を創り育てていこうとしている様子をお伝えします。



ステートメント

楽しく、おしゃれで元気な街。 全ての人を柔らかく包み込む 優しい都市、優しい人々。 ここで始まる新しい暮らし やさシティ、まつど。

街が「やさしい」ってどういうこと？

～まつどやさしい暮らしラボが紹介しています～



ラボのプロジェクトメンバーのうち3人に「やさしい」についてお話をうかがいました

まつどのやさしさを探せる「のみの市」を目指そう

八嶋商店
やしままさのり
八嶋正典さん

私の店がある松戸駅周辺は昔「松戸宿」と呼ばれていました。人の出入りも多かったので、今でもアートやまちづくりを志して訪れる若い人たちのチャレンジを受け入れる度量のある大人が集まる場になっています。下町のおせっかいともちがう、そんな「寛容」さがこの辺りにはあると感じます。

また、商家の座敷では人が集まって俳句を詠んだり、法話を聞いたりといった「講」のような旦那文化もありました。

古い街には「人への関心」や「思いやり」がたくさん集積されていますが、みんな一堂に会することでもなければ見えてこないものです。

「まつどやさしい暮らしラボ」が、市民の文化・情報のショーケースや「のみの市」のような機能をもつ窓口になって、まつどに集積されたものを探そうとする人とをつなぐ懸け橋になればと思います。



人と人の温かいつながりが実感できるまち

(公社)松戸青年会議所理事長
やまぐちえりこ
山口恵理子さん

まちが「やさしい」とは、何より「人」に関する印象や心地良さが非常に重要だと思いますし、「やさしいまち」とは、人と人の温かいつながりが実感できる事が大切だと思っています。

松戸に住んでいるみんながまちに関心を持ち、まちを好きになり、一緒に松戸を良くしていくために協力したり、支え合ったりできる人間関係がどんどん広がっていけば、松戸は今よりもっともっとすてきなまちになると思います。

また、愛郷心は生きていく上で心の強さにもつながると考えています。私の職場は幼稚園ですが、子どもたちにも生まれ育ったまちに愛着を感じて欲しいと思っています。

松戸のまちのファンを一人でも増やすことを青年会議所の理事長として1年間取り組んでいきます。



やさしさとやさしさの橋渡し役になりたい

NPO松戸子育てさばーとハーモニー
いしかわしずえ
石川静枝さん

館長をしている野菊野こども館は団地の中にありますが、団地の自治会の人や壁のペンキを塗ったり、ドアの窓を作ってくれたりといったやさしさに触れています。団地の夏祭りや餅つきに学生ボランティアと参加すると、テントの張り方やお餅のつき方を教えてくれます。外国籍の人が来たときも、子どもも大人もお互い緩やかに受け入れてくれます。

やさしさは人によって感じ方が違うと思いますが、自分を一人の人間として受け入れてくれるところがやさしいまちなのではないかと感じます。

あいさつ等日ごろのちょっとした行動で、「よく来たね」「あなたのことを見てるよ」と伝えたいです。

こども館がやさしさを感じるきっかけの場となれば良いと思いますし、そうした「やさしさとやさしさの橋渡し役」になれたらいいなと感じます。



公式WEBサイトの記事を書く市民記者 まっどライターズクラブ

左ページ(特集3ページ)で紹介した記事のような松戸らしい“やさしさ”を市民の目線で伝えてもらおうと、市民記者の集まり「まっどライターズクラブ」を結成し、活動をはじめました。

公式WEBサイト「まっどやさしい暮らしラボ」で、市民記者が記事を作成するまでの様子を紹介します。

記事の公開まで (市民記者の活動)

平成26年9月に募集した市民記者は、3月1日時点で14人が活動しています。

研修会

市民記者を対象とした研修が行われ、プロの編集者・ライター・カメラマンが講師となり、取材、文章の書き方、写真の撮り方のコツについて真剣に学びます。

編集会議

市民記者とまっどやさしい暮らしラボプロジェクトメンバー・シティプロモーション庁内部会員(市職員)が集まって編集会議を開催します。発信する記事の企画について関心や得意分野の近いメンバー同士で話し合った後、市民記者の皆さんが書きたいテーマを決定していきます。

取材

編集会議で決定したテーマを元に、市民記者の皆さんはそれぞれ取材先に向かい、精力的に取材を行います。県立松戸高校の芸術科を取材した市民記者の廣瀬亘さん「インタビューで聞いた芸術の専門用語をどうやったらうまく伝えられるかと思い、取材の時に私も勉強しました。生徒のいきいきした活動がちゃんと伝わる写真を掲載したいです」。

記事掲載

取材内容を決めてから約2カ月をかけて、「やさしい」視点でまっどの魅力を伝える記事が完成。公式WEBサイトで公開し、発信していきます。



市民記者の皆さんが執筆した記事を紹介します (再構成して掲載しています)

素敵な発見!

鉄道の街・松戸 駅長さんに聞きました! 松戸と我が駅の魅力(JR馬橋駅)

以前にまっどの魅力について話し合った時に、「松戸は鉄道の街だ!」という声がありました。松戸の地図を眺めてみると、5社・6路線・23駅。そして鉄道の車両基地が2つもあり「松戸は鉄道の街」という思いが強まりました。そこで松戸にある駅の、駅長さんを訪ねて、松戸の魅力や、その街のステキなところを、こっそりと教えて頂きました。



地元を温かな目で見守る駅長さんたちの声を聞いてみてください

第一回目のご登場は、JR東日本・常磐線・馬橋駅の駅長・篠崎隆雄さんです。篠崎さんは、昭和62年4月、国鉄から、JR東日本に民営化された時から数えて、第12代目の駅長さんです。そして、松戸住民でもあるのです。そんなJR馬橋駅長の篠崎さんに松戸と馬橋駅周辺のとっておき情報をお聞きして来ましたよ(^^)!

馬場 浩士 (しばひろし) さん

松戸の市民記者として、松戸のステキ!を取材し、多くの方たちと出逢い、それをお知らせしていきたいと思っています。



『馬橋』のキャッチコピーは『駅名の由来となった馬橋はいまも健在!水戸街道きっての古刹 萬満寺』

駅長さん「駅名の由来となっている『馬橋』は現在も、水戸街道の面影を、いまに残してくれます。萬満寺さんは、日本で唯一の中気除けのご利益があるとされ、多くの参拝のお客様が訪れているのです。」

おすすめスポットは「新作にある竹林」

駅長さん「駅から徒歩15分くらいの新作にある、ちょっと京都を思わせる、美しい竹林はおすすめです。普通に眺めても美しいのですが、真冬の雪の時に訪れても素晴らしいですよ。」



(2015年1月14日公開)

個性がたのしい

ようこそ!松戸競輪場へ ~市民レーサーからオリンピックを目指すケイリンガールズまで~

松戸市にあるプロスポーツ施設「松戸競輪場」。常磐線で通勤をしている人は、車窓から見かけたことはありませんか?

競輪を見たことがない皆さんに一周333mのバンクを時速50km~70kmで駆け抜ける選手の素顔を紹介したいと思います。



競輪に女子選手?

女子競輪は1949年から15年間、開催されていて、2012年7月に「ガールズケイリン」として1期生33人がデビューし復活。3期生としてデビューした石井貴子さんは、ホームバンクが松戸競輪場。2012年のロンドンオリンピックで女子ケイリンが正式種目に採用され、リオデジャネイロや東京オリンピックに出場することが期待されています。

千葉 淳 (ちばじゅん) さん

「人生は旅」、松戸市民から転勤族、帰郷。これからは「松戸芭蕉」となり旅人の目から見た「松戸」を伝えていきます。



(石井)「現在チームスプリント日本代表として世界に挑戦しています。夢はオリンピック出場。私達が注目されることにより、競輪ブームのきっかけになればと思います。」

「遠征の間には松戸競輪場で練習しています」という松戸市民の山本奈知選手は、元インラインスケート世界2位という経歴。デビューした2014年の9月には取手競輪場で優勝し今後の活躍が期待されます。

一般市民が競輪場を走行可能?

「松戸市から国体選手を」という目的で設立されたNPO松戸市自転車競技連盟。現在、会員は15名。月2回、実際に競輪が行われているバンクで練習しています。鍛え抜かれたアスリート達が駆け抜ける!迫り満点の競輪場へようこそ!



(2015年2月3日公開)



伊東 恵 (いとうめぐみ) さん

生まれも育ちも松戸なので、少しでも多くの方に松戸の魅力をお伝えできるよう頑張りたいとおもいます(^^)!



小川 照美 (おがわてるみ) さん

松戸在住22年。食べ歩きが趣味です。「人の魅力が街の魅力」。そんなことを伝えることができればと思っています。



加古 奈保美 (かこなほみ) さん

マイお散歩コースは矢切ねぎの畑道から江戸川沿い。松戸のほっとするところ、カワイイ!素敵!なものを紹介したいです。



倉地 大 (くらちだい) さん

松戸で育った「松戸っ子」。旅行で日本全国を制覇しましたが、松戸がイチバン!松戸の魅力を伝えていきたいと思っています。



しのざわ ふみこ (しのざわふみこ) さん

手書きのフリーペーパー「まっどい」を発行。みなさまの心がポツとあたたかくなるような情報をお届けしたいです。



清水 美恵子 (しみずみえこ) さん

松戸在住13年。街を愛し街に愛されるをモットーに、色々な年代の目線で「まっどらしいやさしさ」を発見したいと思います。



田村 果鈴 (たむらかりん) さん

松戸市の魅力に虜にされた大学生。松戸のまちのいいところ、松戸市に住む人の魅力を伝えていける記事を執筆したいです。



濱見 優 (はまみゆう) さん

温かい人で溢れる松戸が大好きです!まだまだ知らない松戸の魅力を体感し、みなさんに発信できたらなあと思います。



廣瀬 亘 (ひろせわたる) さん

松戸在住47年。歩く催しに数多く参加。知り得たホットな穴場や文化活動をする若い人々などを紹介したいです。



水村 和香 (みずむらよりか) さん

小学生サッカーのコーチなど、いつも自転車で松戸市内を駆け回っています。体当たり取材で松戸市の魅力を伝えます。



三高 恵祐 (みたかけいすけ) さん

学生、文化人類学を専攻。若者ならではの目線で松戸市の魅力を伝え、みなさんと共感できたらいいなと思っています。



向坂 有加 (むこうざかゆか) さん

生まれも育ちも松戸で、松戸が大好きです!松戸の思わず足を運びたくなるような情報をお届け出来たらと思います。

公式WEBサイトで“松戸のやさしい”をテーマに情報発信しています



まつどやさしい暮らしラボ公式WEBサイト
URL <http://matsudo-yasashii-labo.jp/>



QRコード

まつどらしい 6つの「やさしい」って?

世の中に「やさしい暮らしへのヒントやアイデア」「やさしい暮らしづくりに挑戦している人々」を共有するにあたり、6つの視点からお伝えしています。

- ほっとできる → 心をほっとさせてくれること
- 個性がたのしい → 誰でも受け入れてくれること
- 受け継いでる → 魅力を受け継いでくれること
- つながってる → つながりを広げてくれること
- 素敵な発見! → あっ!と発見させてくれること
- 意外と便利! → 便利に生活させてくれること

このような記事で魅力を伝えていきます!

受け継いでる

感謝の気持ちを灯りに託して「松戸宿 坂川献灯まつり」

江戸時代、水運と宿場で栄えた「松戸宿」では毎年夏になると、松龍寺境内の「すくも塚観音」の縁日「四萬六千日」に「とうもろこし市」が立ち、多くの人で賑わっていたそうです。春雨橋からレンガ橋までの沿道と松龍寺などの川沿いを舞台に、毎年8月9日・10日の2日間、「松戸宿坂川献灯まつり」が開催されています。



地元の皆さんが手焼きする、焼きとうもろこしは甘くて格別

松龍寺前の参道では、江戸時代から今なお続く、夏の名物行事「とうもろこし市」が開かれます。焼きたてのとうもろこしは、とっても甘くて美味しいと大好評。



坂川沿いの沿道や松龍寺の参道には、町会や地元の商店・関係団体などの「縁日屋台」がズラリと並びます。

さまざまな献灯が、ほんのりと会場を照らす

地域の子どもたちが描いた「献灯箱あんどん」をはじめ、松龍寺の境内を飾る竹あんどん、坂川で行われる「とうろう流し」などさまざまな献灯が灯ります。角町のレンガ橋(めがね橋)近くに設けられた棧橋から流した灯籠はゆっくりと春雨橋の方へと流れていき、特設ステージがある「坂川ひろば」の前に集まります。

春には「松戸宿坂川河津桜まつり」、秋には「松戸神社の大祭」。催し物の他にも、老舗の呉服店や提灯やさんに和菓子やさん、寺社、かつての米蔵を利用した観光案内所など、旧松戸宿には歴史や風情を今に受け継ぐスポットがいっぱいあります。

坂川周辺をゆっくりとお散歩しながら、地元の皆さんとの心のふれあいも楽しんでみたいですね。

(2014年10月27日公開)



つながってる

松戸を元気に! いつでも聴けるポッドキャストラジオ「ラジオポワロ」

インターネット上で配信されている音声や動画を好きなきに視聴できるポッドキャストラジオに、松戸のスタジオから地元目線で松戸の情報を伝えてくれる番組「ラジオポワロ」(ポワロはフランス語でネギ)。そんな「ラジオポワロ」が誕生したきっかけは、なんだったのでしょうか。



松戸の人たちに、ラジオで伝えたいことがいっぱいある

- 松戸を好きになってもらいたい
『素直にありのままに伝えれば、松戸という街を等身大で好きになってもらえるんじゃないかと思っています。』
- 地域の災害情報を伝えたい
『東日本大震災をきっかけに、防災・減災という観点からも、ラジオでの情報伝達をより真剣に考えるようになりました。』
- 松戸の街を活性化したい
『地元・松戸で音楽活動をしている、才能ある若者の活躍をラジオで伝えることで、新しい地域の活力や魅力ができる気がしています。』
- 人々に寄り添いたい
『ラジオを聴けば、仲間に会えるような番組になれたらと思っています。』



いつか、松戸市にコミュニティFM放送局を開局したい

2011年3月29日に誕生した「株式会社エフエム松戸」。彼らは今、コミュニティFM局の開局を目指して、日々奮闘しています。少しずつ番組数も増えてきて、お楽しみもいっぱい。リスナーもどんどん増えてきているそうですよ。知らなかったことに出会えたり、知り合いがゲストで登場したり。地元・松戸の情報がいっぱいあった「ラジオポワロ」を聴いてみてはいかがでしょうか。(2015年2月19日公開)



左から鈴木麻里子さん・上條樂子さん・寺田一彦さん

ほっとできる

『21世紀の森と広場 ドコでもシアター』 “フクラむ春に、ハズむ音”

2014年3月21日に開催された『ドコでもシアター』。ポカールとダンスによるミュージカル演奏で、会場参加型のコンサートにより、笑顔があふれた当日の様子をレポートしています。(2014年4月17日公開)



意外と便利!

都心に一番近い田舎?まつどのアクセスと自然意外と知られていない、まつどの“べんり”な一面をお伝えしています。「アクセス」と「自然」をキーワードに、働くひとに、生活者に、子どもに家族に“やさしい”街「まつど」を紹介しています。(2014年3月24日公開)



他にもこのような記事を紹介しています

個性がたのしい

●「がんばりまつどお〜」まつどを応援するおじさんキャラ「松戸さん®」(2014年7月23日公開)

つながってる

●アートとコミュニティの拠点として進化し続ける築100年の古民家 (2014年5月9日公開)

素敵な発見!

●松戸の美味しい野菜を探そう・軒下販売所探検ツアー (2014年5月9日公開)
●21世紀の森と広場でのおもいきりあそび!! 森のこども館 (2014年4月17日公開)

まつど大好き! Facebook上のファンクラブ まつどやさしい暮らしPR部

公式Facebookページ「まつどやさしい暮らしラボ」

ご覧になる皆さんはこちらから

URL <https://www.facebook.com/matsudoyasashiilabo.jp>

PR部の皆さんの投稿のほか、「まつどやさしい暮らしラボ」の活動や、まつどの魅力をお伝えしています。



QRコード

PR部の投稿を表示



QRコード

みんなの投稿を共有(シェア)

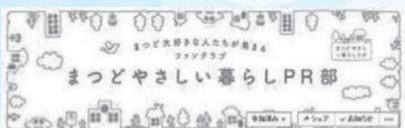
PR部員募集中

Facebookグループ「まつどやさしい暮らしPR部」

投稿したい皆さんはこちらから

URL <https://www.facebook.com/groups/matsudoyasashiipr/>

まつどの魅力や身近な話題、イベント情報などを日常的に発信する、まつど大好きな人たちが集まるFacebook上のファンクラブです。



※情報の発信には、ご自身のフェイスブックアカウントが必要です。
※グループのページに表示されている「グループに参加」をクリックして、参加申請してください。管理者が承認後、参加可能です。
※この企画はFacebookを使用していますが、松戸市が独自に行っているものです。

まつどの魅力がいっぱい! これまでのPR部員の投稿

PR部員・竹俣 一さんの投稿

「松戸市民会館近くの大正寺さんの境内で、紅梅白梅揃って咲き始めてました(^_^)」
(2015年2月7日公開)



PR部員・高橋 秀雄さんの投稿

「2月14日から、戸定邸で雛祭りです。敷地の竹を飾り台にして、小さな手造り雛人形を飾ってます。3月3日まで。」
(2015年2月14日公開)



PR部員・大原 雄治さんの投稿

「仕事が休みにつき、八柱霊園を走ってきました。こんなに寒い日でも、汗はしっかりかきます。霊園に行く途中にある河原塚古墳。なんとなく古の息吹を感じるのは、気のせいでしょうか!」
(2015年2月9日公開)



防災食がごちそうに変身! みんなで安全を確かめ合う日



まつどやさしい暮らしラボが主催したイベントを、まつどライターズクラブの市民記者・しのざわふみこさんがリポート!



防災についての情報や意見のシェア、非常食を効率的に入れ替えるローリングストック法について学びました。

ローリングストック法

非常食を賞味期限を切らさないように普段使いしながら、もしもの時のために備えておく方法です。

本当に非常食なの?

おしゃれな「ごちそう」にニコリ笑顔!

この日の「ごちそう」は、一般的に非常食としてよく使われるものを用いて2人のシェフが美味しく調理した5品。また、災害時は地元野菜も非常食になる、との考えから、地元農家の「石井農園」さんが「あじさいねぎ」をはじめ、たくさんの野菜を提供してくれました。

まるで、ご褒美のような贅沢ランチ!! でも、本当に非常食を使っているんですよ。



お餅(乾燥餅)と野菜のミルクフィーユ



アルファ米を使ったごはんのチャウダースープ

いざという時、慌てないために。ご近所同士で防災マップづくり

非常時になってからではなく、平常時からよく考え想定しておくこと、親戚や友人、ご近所さんなどの関係作りも大切だと実感しました。



自宅周辺の食料備蓄場所、医療機関や水源を書き込みました。



同じ会場の「防災講演会」のロビーで出したブース

ラボの公式WEBサイトでは、当日のごちそうレシピも紹介しています。ぜひ、ご覧ください!



「ごちそうとぼうさい」は、阪神・淡路大震災からちょうど20年目の節目を迎え、防災について今までは違った視点から見つめなおすキッカケとなるようにと、行われました。

1月16日、会場の市民会館調理室には46名の市民が集まりました。被災地での経験を持つ2名のプロの料理人である新松戸の田島亭・田島加寿央シェフ(写真左)、出張料理人・キムラズヒロシェフ(写真右)が目前で乾パンやアルファ米、乾燥餅といった非常食や地元野菜を使って作った「ごちそう」に笑顔で舌鼓!



広告

広告スペース